

生物資源科学部だより

Vol.28

発行 2018年 7月

編集・発行 / 島根大学 生物資源科学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 URL: <http://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL: (0852) 32-6493 FAX: (0852) 32-6499 E-mail: lif-jimu@office.shimane-u.ac.jp



学部長より保護者の皆様へのご挨拶

いとう かずひと
生物資源科学部長 井藤 和人

保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。お預かりしているお子様が有意義で充実した大学生活が送られるよう、また、社会で活躍できる人材として送り出せるよう教職員一同で努めてまいりますので、皆様には一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本学部では、これまで以上に地域社会の発展と持続可能な環境調和型社会の確立に貢献できる人材を養成するため、本年度より、生命科学科、農林生産学科、環境共生科学科の3学科に再編し、新しい体制での教育・研究を行っています。年2回発行する「生物資源科学部だより」では、本学部の活動状況、お子様方の学習の様子や就職状況などについてお知らせしています。11月3日に予定しています保護者会と合わせて、お子様方の様子や大学について知っていただける機会となることを願っております。

大学院も本年度から総合理工学研究科と統合し、新しく自然科学研究科を設置することで、これまでの体制ではできなかった自然科学系の幅広い学問分野における人材の育成を目指しています。学修の専門性を高め、専門性の高い職業への就職のチャンスが広がることが期待されますので、お子様方の進学につきましてもご検討いただければ幸いです。最後になりましたが、皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

生物資源科学部に新入生235名が入学

—入学式後に保護者会・後援会総会も開催—

4月2日(月)、松江市のくにびきメッセで平成30年度島根大学入学式が挙行され、生物資源科学部には1年生211名、3年次編入学生24名および自然科学研究科179名が入学しました。



くにびきメッセでの入学式

入学式後、生物資源科学部保護者会・後援会総会を開催し、多くの保護者の方にご参加いただきました。井藤学部長のあいさつに続いて武田学生委員長から入学後の学生生活、学生



保護者会・後援会総会の様子

支援等について説明がありました。引き続き後援会総会を開催し、野々村会長の挨拶後、新理事の選出が行われました。

後援会は保護者の皆様が会員となり、学生の進学、就職支援ならびに学生生活充実のための様々な活動支援を行っています。保護者の皆様には活動へのご理解とご協力、そして後援会へのご加入をよろしく願いたします。

後援会への入会をお待ちしています!

生物資源科学部後援会は、「生物資源科学部の強化発展を期し、その教育事業を後援することを目的」として、保護者の皆様が会員となり、学生生活への支援をいただいています。未入会の方は、「島根大学生物資源科学部後援会入会へのご案内」パンフレットをご覧ください。是非入会いただきますようお願いいたします。学生生活支援にご協力ください。

●学部生 入会金及び会費30,000円

●3年次編入学生 入会金及び会費15,000円



保護者会での個別面談の様子

1～4年生の様子

生命科学科

【1年生】 1年生は全学共通科目と基盤科目を主として学んでいます。初年次教育では、数名のグループ毎に3コマずつ教員2名の指導を直接受け、大学での研究や基本的な研究技術に触れると共にアカデミックスキルの向上を図っています。
(松尾助教)

農林生産学科

【1年生】 62名の新生入生が農林生産学科に入学しました。4月12日に開催された学科歓迎会に参加し、授業を受ける15人単位の班に分かれて、在校生から大学生活でのアドバイスを受け、クラスメートとの交流を深めました。

【2～4年生】 農村経済学コースの2年生は、5月3日から1泊2日で飯南町獅子地区を訪れ、地域の方と田植えをしました。地元のタケノコや猪肉を振舞って頂くなど温かく迎えて頂きました。この1年間、地域に通いながら地域の自治や課題解決策について考えていきます。農業生産学コースの3年生は、分属を経て、専門的な実験手法や知識を修得するため、専攻実験や研究演習を受講しています。森林学コースの4年生は大学生活の集大成となる卒業研究に取り組み始めています。就職活動を行いながらの学業は大変ですが、充実した日々を過ごしています。
(足立助教)



環境共生科学科

【1年生】 2018年度、70名を超える1年生が環境共生科学科に入学しました。英語などの教養科目と環境共生科学基礎セミナーなどの学科科目を受講し、大学生活を開始しました。早速、実習や実験作業を含む科目にも取り組んでいます。
(吉岡助教)

生物科学科

【2～4年生】 2年生は、セミナーIIが始まりました。セミナーIIIは7人の学生に1人の教員がつき、英語の論文を読んだり、基礎的な生物学実験を行います。3年生は、やや高度な実習を履修し、実験技術の習得を行っています。講義も専門の授業が多くなり、難しくなっているようです。4年生は、3年生の後期に研究室に配属されたあと、卒業研究のために必要な知識や技術を学んでいます。3月から就職活動が始まったため、まとめて実験ができない日が続いていますが、4年間の集大成である卒論を悔いなく乗り切ってもらいたいと思います。
(秋廣助教)



地域環境科学科

【2～4年生】 生態環境科学、環境資源工学、地域工学という3つの教育コースから構成される地域環境科学科では、2年生から4年生が、地域環境を理解し、科学するための道のりを着実に進んでいます。2年生は後期から各教育コースに配属され、これまでよりも専門性が高い学問に励むこととなります。3年生は後期に研究室配属があり、これまで積み重ねてきた専門科目の知識を総動員していくための準備に取り組むこととなります。4年生は、いままさに卒業研究に取り組み、独自の成果を出すために尽力しています。各学生が実りある今年1年を送ることを祈ります。
(吉岡助教)



生命工学科

【2～4年生】 2年生は、本格的に専門科目の履修が始まり、午後からは本格的に実験科目が始まり実験技術を習得します。3年生は、各研究室の研究につながるやや高度な実験科目を履修し、基礎から応用まで種々の実験技術と知識を習得します。2年次からは、専門英語の読解に必要な演習科目も始まります。

4年生は、3年生後期に研究室に配属されたあと、専攻実験や演習によって卒業研究に必要な知識や技術を学んできました。現在は、大学生活の集大成ともいえる卒業研究に取り組んでいます。実験を通じて、考える力や課題解決能力を養い、社会で通用する力を育ててもらいたいと思います。
(戒能准教授)



新任教員からのあいさつ



しぶや ともき
渋谷 知暉 助教

農林生産学科
平成29年11月1日着任

平成29年11月に着任しました。園芸作物(野菜・果実・花など)の光応答とその利用について研究を行っており、生産現場での光環境調節による園芸作物の生育制御や高品質化を目指す研究、生理学的・分子生物学的解析による光応答のメカニズム解明に取り組んでいます。他に、園芸作物の健康機能性成分が減少しにくい加工方法に関する研究や、植物成長調整物質の作用機序に関する研究など、多様な園芸作物の多様な課題に積極的に取り組んでいきたいと考えています。島根県においても園芸作物の生産は盛んであり、多様な品目が生産されています。こうした園芸作物の高付加価値化や利用に関する研究を通して、新しい価値の創造、地域貢献に繋がっていきたく考えています。



あらし ふとし
荒西 太士 教授

生命科学科
平成30年4月1日着任

学部改組で新生命科学科に水圏コースが開設されたことに伴い、汽水域研究センター資源解析部門教授から異動いたしました。現在の専門分野は遺伝生態学であり、水圏動植物の進化放散や系統保全に関わる分子遺伝学的研究を進めています。また、研究機構水産資源管理プロジェクトセンター長として、山陰地方の地域特性を活かした有用水産資源の開発管理や培養増殖など実学的な教育研究にも携わっています。平成19年10月に島根大学へ着任して10年の節目で心機一転でき、学生の教育指導や若手研究者の育成により一層邁進いたします。関係者の皆様方には今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



むろた かえこ
室田 佳恵子 教授

生命科学科
平成30年4月1日着任

平成30年4月より生命科学科食生命科学コースに着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。食物には、栄養素を供給したり美味しさを感じさせたりする機能に加えて、体の調子を整える機能が備わっています。私は食品の健康機能に関わる成分が、実際にどのくらい体内に吸収されるのか、またどのような代謝を受けるのかを明らかにするための研究を行っております。食品成分の吸収代謝情報は、その成分の作用機序の解明に大きく役立ちます。食品機能研究を通じて、学生諸君の食と健康に対する意識を高め、食品に関わる研究開発技術者の育成を行うとともに、島根県の食品業界にも貢献をできればと考えています。



くらた けんご
倉田 健悟 准教授

環境共生科学科
平成30年4月1日着任

前所属のエスチュアリー研究センター(旧汽水域研究センター)から斜め向かいの生物資源科学部2号館に引っ越してきました。平成14年10月に島根大着任後、日本最大の汽水域として知られる宍道湖と中海を主なフィールドとして研究を行ってきました。汽水域は常に人間活動の影響を受けている場所であり、「環境」と「共生」するための「科学」の実践を行うのに適した場と言えます。例えば、気候変動がどのように汽水域生態系に影響するのか、汽水域の生態系サービスを持続的に利用する方法は何か、などのテーマが考えられます。汽水域生態系の「面白さ」と「重要さ」を知ってもらい、地域の課題を解決する力を持った人材を社会へ送り出すことを目標にしたいと思っています。



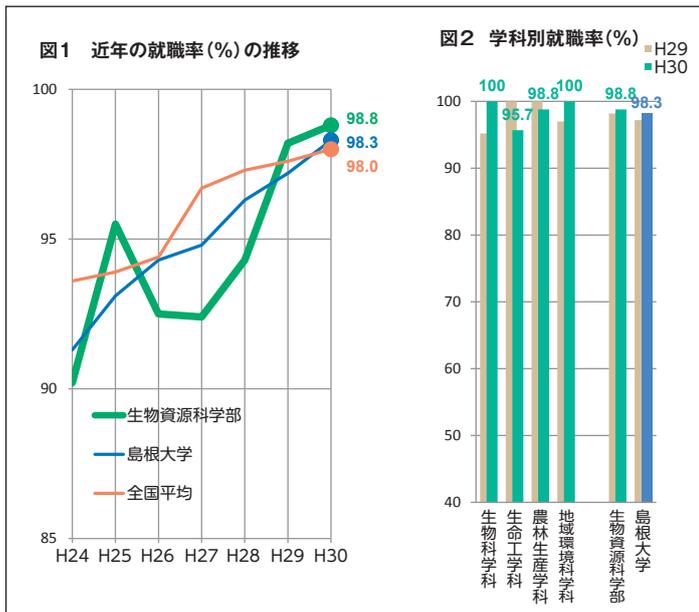
にしむら こうじ
西村 浩二 准教授

生命科学科
平成30年4月1日着任

総合科学研究支援センターから異動して4月に着任しました。私たちは毎日、お米や野菜、果物といった農作物を食べて、元気な毎日を過ごしています。農作物に含まれる栄養成分は、植物細胞の中で作られ、貯蔵されたものです。例えば大豆は栄養豊富ですが、その多くは液胞に貯蔵された貯蔵物質で、私たちはそれを食しています。私は、植物細胞内で栄養貯蔵物質が作られ、蓄積する仕組みに興味があり、植物細胞における液胞タンパク質の膜小胞輸送系に関する研究を行っています。蛍光バイオイメージングを用いて植物のタンパク質の細胞内動態を顕微鏡で詳しく解析しています。島根県の農作物の機能改変の観点から私たちの食生活の向上を目指します。

平成30年3月卒業生 就職・進学状況

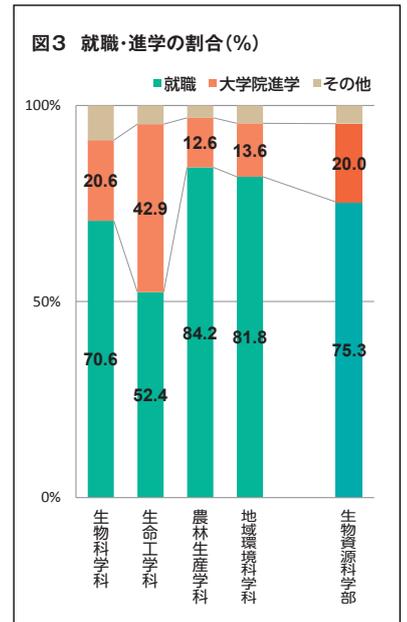
昨年に引続き高い就職率となっています。



平成30年3月卒業生の就職状況は、就職希望者数164名(昨年165名)、就職率98.8%(昨年98.2%)と昨年より高くなり、島根大学の平均や全国平均よりも高くなりました(図1)。学科別の就職率を見ますと、生物科学科と地域環境科学科で100%となり全員の就職先が決定しています。生命工学科は95.7%、農林生産学科が98.8%でした。(図2)。就職状況は昨年に引き続き良い状況です。就職先は、企業(共立製薬、オイシス、ホシザキ四国、ロッテホールディングス、旭化成、コスモス薬品、リボン食品、雲海酒

造、やまぐち県酪乳業、マザー牧場、竹内園芸、八幡物産、丸和林业、住友林业緑化、大成化工、シアトルコンサルティング、J R西日本、九電産業、日本アクセス、J A兵庫六甲、マイナビ、島根銀行、鳥取銀行など)124名、公務員(国土交通省、島根労働局、北陸農政局、海上自衛隊、島根県、松江市、安来市、大山町、愛知県、京都府、兵庫県、岡山県、高知県、福岡県、広島市、その他国・地方自治体等)34名、教員4名と多岐にわたっています。

一方、大学院への進学率は、昨年と同様20%(43名)となりました。学科別の進学率は、生物科学科21%、生命工学科43%、農林生産学科13%、地域環境科学科14%で、生命工学科が高く、農林生産学科や地域環境科学科が低めでした(図3)。大学院生の就職率は、97.8%(昨年97.5%)で、大学全体97.5%よりやや高くなっています。大学院生は、研究職や技術職として採用される率が高くなっています。



学会等における受賞者

受賞者	受賞内容
江角 智也 准教授(農林生産学科)	平成30年度園芸学会奨励賞
中務 明 准教授(農林生産学科) 小林 伸雄 教授(農林生産学科)	園芸学会平成29年度年間優秀論文賞
戒能 智宏 准教授(生命工学科) 松尾 安浩 助教(生命工学科) 川向 誠 教授(生命工学科)	日本農芸化学会 BBB論文賞
川向 誠 教授(生命工学科)	日本農芸化学会 BBB Most-Cited Review Award
松尾 安浩 助教(生命工学科) 戒能 智宏 准教授(生命工学科) 川向 誠 教授(生命工学科)	日本農芸化学会 2018年度大会トピックス賞

※職階、所属学科はH29年度受賞時点のもの

平成29年度島根大学学生表彰 受賞者 生物資源科学部からは6名の学部学生が受賞

- 勉学に精励し、学業成績が特に優秀であり、他の学生の模範となると認められる者
宮崎 将也(生物科学科4年)、野津 昌史(生命工学科4年)、伊東 航一(農林生産学科4年)、小村 康人(農林生産学科4年)、和田 望里(地域環境科学科4年)
- 第28回「ヤンマー学生懸賞論文・作文」において、特別優秀賞を受賞
坂田 由奈(農林生産学科)

※学年は平成30年3月時点のもの

大学院への進学を薦めています

平成31年度春季入学(一般入試) 島根大学大学院自然科学研究科(博士前期課程) 学生募集

出願期間 【1次募集】平成30年7月13日(金)～平成30年7月20日(金)
【2次募集】未定

試験実施日 【1次募集】平成30年8月30日(木)～平成30年8月31日(金)
【2次募集】未定

お問合せ 自然科学系第二課(学務グループ・入試担当) Tel: (0852)32-6256

大学院修士課程でさらに2年間学ぶことで、より専門性の高い職業への就業力が身につきます